

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195
法人名	社会福祉法人 親孝会
事業所名	グループホーム 太陽の郷
所在地	福岡県飯塚市鯉田字古堤516番地17
自己評価作成日	平成29年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年3月22日	評価結果確定日	平成29年4月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>社会福祉法人親孝会は平成6年4月に飯塚市下三緒に特別養護老人ホーム太陽の郷を開設しました。その後、ショートステイ・ケアハウス・デイサービス・居宅支援事業所を開設し運営しています。平成21年5月より、飯塚市鯉田にて介護付有料老人ホーム・グループホームを開設しました。当施設のスタッフのみでなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着型の精神を重視して利用者個人個人に合わせた介護を実践しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム太陽の郷」は開設8年目を迎える事業所であり、併設する介護付有料老人ホームと共に、様々なイベントに取り組んでいる。バリアフリーでつながる広い中庭があり、利用者は、時折中庭での食事や園芸を楽しまれている。利用者からは買い物や外食などの要望が多く、「行きたい場所」や「やりたいこと」の実現に向け、個別の支援が行われている。毎年度、スタッフが自ら立てる事業計画では「チームワーク」を掲げ、情報の共有や連携を大切にしながら、「長さん会議」への参加も含めた地域とのつながりにも広がりを見せつつある事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念の基、グループホーム独自の運営方針を作成しており、職員間で共有し実践につなげている。	職員が独自に考え作成した理念に基づき、ケアが行われている。採用時には、理念を共有している。毎年、職員により事業計画が見直され、理念の振り返りを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、地区の各長が集まる長さん会議に参加して地域の情報を得ている。又、地域の行事には可能な限り参加している。	月1回の鯉田地区の「長さん会議」では、小中学校、社協、警察署など、24の各機関の長が集まり、翌月の事業計画の報告・共有がされている。地区運動会や地域の祭りなどには積極的に参加するようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者研修の内容の一部を、運営推進会議において委員の方々に説明した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期的で開催している。当事業所の取り組み状況や利用実績等を報告し、ご意見やご指摘を頂いている。	運営推進会議は併設の老人ホームと合同で定期的開催され、運営状況の報告などがされている。家族は1組参加し、適宜意見をいただいている。「認知症」について、運営推進会議で講義を行ったこともあり、啓発もすすめている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	飯塚市地域密着型サービス連絡協議会に加入しており、行政との連絡を密にとっている。又、介護相談員の訪問を受け入れている。	飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では「研究部会」として「徘徊ネットワーク」についての検討をすすめている。生活保護の方へはケースワーカーの面会があり連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実施している。玄関は併設の介護付有料老人ホームから出入りしている。介護付有料老人ホームの玄関は施錠していない。	高齢者虐待防止法・身体拘束排除について、研修が行われ、意識付けされるとともに、居室に畳を敷いて転倒を防止する等、環境整備を行い、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して虐待に関する研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去、成年後見制度を利用されている利用者がおられ、職員に対して研修を行った。	制度に関する情報提供について、運営推進会議にて検討している。必要時には、説明できるようパンフレットなど準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際、ご家族に重要事項説明書、利用契約書等の説明を行い、ご理解を得ている。又、重要事項説明書に変更が生じた場合は、その都度、ご家族に説明し、ご理解を得ている。但し、利用者本人に、ご理解を得るのは困難である。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、ご家族の来所の際にもご意見やご要望を聞いている。	家族からの要望や意見は面会時に聞いている。食事の味付けや外出、リハビリの要望などについて、できる限り対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、サービス向上会議、職員会議を開催しており、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	職員の意見は1回/月の会議の際や日々の申し送り時に聞くようにしている。毎年、職員が年間計画を立て、今年は「チームワーク」を目標に一人一人が前向きに運営に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場の環境に配慮し、職員が働きやすい環境に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークや派遣会社を通して職員の採用を行っており、求人票にも性別や年齢は不問と記されている。	採用にあたっては、年齢・性別・資格等による排除はしていない。職員の希望等に応じて、研修の参加や資格取得に向けた勤務調整等をサポートしている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては、グループホームの理念にも掲げており、職員間で周知している。又、人権に関する勉強会を開催した。	接遇について研修が行われ、理解を深めている。利用者一人一人のペースやしたいことに寄り添うよう、個別ケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修案内等を配布し研修を受ける機会を設けている。又、法人内でも研修・勉強会を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス協議会を通じて、他の事業所との交流を図っている。又、サービス協議会内に研修部会、研究部会、広報部会が発足している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者ご本人の訴え、要望には素早く対応している。又、訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしている。相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご家族と連絡を取り、ご本人がどの様なサービスを受けていたのか、どの様なサービスをして欲しいのかをお聞きして介護計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの理念を基に取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と綿密に連絡を取りながら、ご本人にあったサービスを提供出来る様に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の出身地の行事や祭りに積極的に参加出来る様に努めている。	近隣神社への初詣やホームの玄関前に盆踊りや山笠が来訪する等、なじみの季節行事に参加できるよう支援している。また、家族との外出泊などなじみの関係継続を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はなるべく皆が一同に集まる様に、食堂にて過ごして頂いている。職員が中に入って利用者が孤立をしない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、当事業所の行事にお誘いしたり、法要にも出席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や言動を見て、ご本人の思いや希望を汲み取っている。又、個別処遇に力を入れている。	入居時に本人や家族からの希望を確認している。日々の生活の中では「食」や「外出」に対する要望も多く、できる限り叶えられるよう計画されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に聞いて情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、利用者一人一人の状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心に介護計画を立案し実施出来るように努めている。又、ご本人、ご家族の参加できる担当者会議を開催している。	担当職員による評価を基に、計画作成担当者がモニタリングを実施し、3か月毎に計画を見直している。思いや状態など把握した上で、本人の役割継続など自立支援に向けた計画が作成されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を時系列で具体的に記録する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護付有料老人ホームの機能訓練器具を使って機能訓練を実施している。又、法人全体でバックアップ出来る体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当事業所が、地域に浸透してきており、地域資源も活用出来る様になって来ている。更に、他の地域資源も活用出来る様に取り組みたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、協力病院である児嶋病院の受診となるが、必要に応じて他病院の受診も行っている。	協力医療機関の往診時には、計画作成担当者や介護職員が情報を提供し、支援している。必要時、訪問歯科や他科受診があり、家族からの協力も得ながら対応している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院である児嶋病院の看護師と24時間連絡できる体制を築いており、適切な看護や往診、受診等が出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院である児嶋病院は勿論の事、他の病院においても、綿密に連絡を取り合い、入退院の対応等において問題なく行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応指針」に則って対応している。	看取りの経験があり、研修等行っている。現在、看取りに向けた体制作りを検討し、利用者の状態や家族の希望等により、対応を検討している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時の対応」の勉強会を行った。又、AEDを設置しており使用方法について勉強会を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。今後は地域との協力体制の強化や夜間対応訓練に力を入れる必要がある。	昼間を想定した消防避難訓練は、併設の老人ホームと合同で2回/年行われている。火災時には地区の消防団の協力を検討している。	夜間想定避難訓練や、風水害・地震等の避難訓練や対策が求められます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。一人一人の人格を尊重する事は当事業所の理念の一つである。この理念の基、さらに接遇や言葉遣いの強化に取り組まなければならない。	プライバシーマニュアルを作成し、理解を深めている。排泄や入浴の際には個別に行うよう配慮されている。職員によっては利用者との関係性が近いと思われる事例もあり、その都度指導している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。しかし、利用者によっては充分汲み取れてはいない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活スタイルに応じて支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、ADLを考慮して利用者に調理が出来る方はおらず、併設の介護付有料老人ホームの厨房で職員が調理をしている。但し、利用者に配膳や台拭き等をして頂いている。	利用者の状態に応じて、ご飯の盛り付けや配膳・下膳等食事の準備をしている。外食の希望は多く、お寿司やステーキ、豆腐料理等外出しながら楽しむ工夫がされている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事形態を提供している。食事摂取量、水分摂取量のチェックは毎日実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、声かけや誘導を行いトイレでの排泄をして頂いている。	排泄チェック表を活用し、利用者の排泄パターンの把握や必要なケアを行っている。現在オムツの方が3名いるが日中はトイレでの排泄を支援している。また、毎朝体操の時間を設けたり、理学療法士の訪問など機能維持に向けても支援されている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	併設の介護付有料老人ホームと入浴設備は共用である事から入浴日は曜日を決めて週3回実施している。	重度化した利用者は機械浴を活用し、安全で快適な入浴を心掛けている。自宅に外泊をする際には自宅での入浴も行われる等支援されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室という事もあり、概ね、皆、良眠されている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が好むレクリエーションを実施し楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には対応出来ていないが、個別に計画を立て、ご本人の希望にあった外出を実施している。	日常的には敷地内の散歩をしている。また、ご希望に沿って買い物や食事(外食)など個別にも対応し、家族を誘うなど支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。当事業所側で利用者一人一人の金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や要望があれば対応出来る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫している。居室の掃除、整理整頓に努めている。	共用スペースである食堂は、季節ごとに模様替えがされ、外出時の写真などが飾られている。中庭では時折園芸が楽しめる。整理整頓を心がけ、利用者が過ごしやすい環境づくりを目指している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、出来るだけ自由に過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人個人のお好みに合わせて自由に使用して頂いている。	居室にはベッドと洗面台が設置され、大きな窓からは中庭が見える。仏壇やソファ、テレビや冷蔵庫など使い慣れたものが持ち込まれている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、テーブルや椅子等の配置にも配慮し安全な環境作りに努めている。		